

令和7年9月12日

各位

一般社団法人 全国信用組合中央協会
全国信用協同組合連合会

第5回「しんくみブランド表彰」受賞先の決定について

信用組合業界の表彰制度「しんくみブランド表彰」の受賞先がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

今回の表彰では、全国の信用組合、協会及び信用組合役職員が取り組んだ多岐にわたる活動のなかから、大賞1先、優秀賞6先の活動が決定いたしました。

第5回「しんくみブランド表彰」受賞先

○大賞

信用組合部門	第一勧業信用組合（東京都） 糸魚川信用組合（新潟県）	地域との絆 ～オリジナル日本酒造り～
--------	-------------------------------	--------------------

※大賞受賞先は連名での受賞

○優秀賞

信用組合部門	函館商工信用組合（北海道）	函館港まつり「ワッショイはこだて」（函館港おどり）への参加による地域行事への貢献
信用組合部門	滋賀県信用組合（滋賀県）	【産学金連携】学生目線の新事業提案・業務改善策を通じた地域貢献および人材育成・確保
信用組合部門	広島市信用組合（広島県）	広島東洋カープとの連携による地域貢献と「しんくみ」ブランドの向上
信用組合部門	大分県信用組合（大分県）	宇佐国東半島観光・地域振興広域連携 Project を通じた大分県の観光振興
役職員部門	河合 由治 氏 【富山県信用組合（富山県）】	青少年育成支援活動（バスケットボールの指導者、競技の普及）
役職員部門	河野 宏幸 氏 【宮崎県南部信用組合（宮崎県）】	縮小する地域社会への対策として学校教育振興と油津地域協議会等を通じた地域活性化への取り組み

信用組合は、営利を目的とせず、相互扶助（共助の精神）を理念として活動する金融機関です。地域経済の活性化や社会・コミュニティの課題解決に向けた取組み、各種の社会貢献活動等、相互扶助を具現化した活動に日々取り組んでおります。

「しんくみブランド表彰」は、これら信用組合業界の諸活動を多くの方に知っていただき、信用組合の基本理念である相互扶助と存在意義をより一層訴求することを目的に、令和3年度より実施しているものです。

【本件に関する問い合わせ先】	
一般社団法人 全国信用組合中央協会 ブランドコミュニケーション部 TEL : 03-3567-2452 (平日 : 9 : 00 ~ 17 : 00)	全国信用協同組合連合会 総合企画部 TEL : 03-3562-5115 (平日 : 9 : 00 ~ 17 : 00)

【大賞】

第一勧業信用組合（東京都）
糸魚川信用組合（新潟県）

地域との絆 ～オリジナル日本酒造り～

活動を開始した経緯
・ 第一勧業信用組合と糸魚川信用組合は、地方と東京の両地域が抱える課題を解決することを目的に、それぞれが持つ強みを活かしながら、事業の発展に繋げていく取組みとして、「オリジナル日本酒造りプロジェクト」を企画した。 ・ さらに2022年から、糸魚川信用組合の取引先である酒造店が自社管理する水田において、第一勧業信用組合の役職員や取引先の飲食店等が酒米の田植えに参加し、飲食店3先（予定を含む）が自ら携わった酒米で醸造された日本酒をオリジナルブランド（店名がラベルになる）として自店で提供している。
活動の概要・目的
・ 単なる「モノ」の販売だけではなく、ストーリー性のある付加価値の高い「モノ」や「サービス」の提供が必要と考え、東京と糸魚川のそれぞれの強みを活かして価値あるものを生み出し、事業の発展に繋げていくことを目的としている。 ・ また、双方の取引先事業者にとってもメリットのある取組みとなっており、酒造店側としては、①自社製造である日本酒「根知男山」の認知度向上、②東京での提供飲食店の増加による販路拡大、③販売先の早期決定等が期待できる一方、第一勧業信用組合の取引先飲食店としても、①お店と同じ名前のオリジナル日本酒という、ストーリー性のある商品を提供することによる他の飲食店との差別化、②商品への思い入れが強くなることによるサービス品質の向上、③田植え体験を通して社員との交流の深化等の効果が期待できるため、両組合の取引先への支援にも繋がっている。
今後の展望・予定
・ 両信用組合は地域活性化に向けた思いを共有し、今後も、本取組みのようにストーリー性のある付加価値の高い商品やサービスを生み出し、東京と地方の両方の事業者の発展に繋がる取組みを継続・規模を拡大していく予定。

【優秀賞】

函館商工信用組合（北海道）

函館港まつり「ワッショイはこだて」（函館港おどり）への参加による地域行事への貢献

活動を開始した経緯
・ 函館商工信用組合の営業地域である函館市で、毎年8月1日から5日までの5日間開催される「函館港まつり」は、市内の3分の1を焼失した1934年の函館大火による犠牲者の追悼と復興を祈願するとともに、函館港開港77周年を記念して1935年にはじまった函館最大の夏のイベントである。 ・ 当イベントでは、道内最大規模で夏の夜空を彩る「花火大会」や当組合が参加している参加型パレード「ワッショイはこだて」など、様々なイベントが開催され毎年賑わいを見せている。 ・ 当組合は、地域経済が低迷傾向になるなか、地域経済を支える信用組合として、地域の活性化の一助となるべく、地元函館で開催される最大イベントを盛り上げるため、1988年から37年間継続して当イベントに参加している。
活動の概要・目的
・ 当組合が参加する「ワッショイはこだて」は、1960年に大規模な踊りのイベントとして「一万人パレード」という名称ではじまり、1996年に「三万人パレード」、1999年に、現在の名称である「ワッショイはこだて」となったもの。5日間行われる祭りのうち2日～3日目に3部構成で行われ、多くの市民が「函館おどり」や「函館イカおどり」などを踊りながら街を練り歩く。 ・ 当組合は、2日目の第一部で行われる「ワッショイはこだて」に、役職員のみならず、その家族（主にお子さん）やOB・OG等の方々、さらにはお取引先など、幅広い世代の方々と共に揃いの浴衣を身にまとい参加し、地元企業や地域住民と一体となって「函館港まつり」を盛り上げるとともに、地域との繋がりをより一層深めている。
今後の展望・予定
・ 当組合は、今後も継続して函館港まつりへ参加し、地域活性化に貢献するとともに、地域社会と共に歩む「良き市民」として、積極的に地元の行事に参加していく。

【優秀賞】

滋賀県信用組合（滋賀県）

【産学金連携】学生目線の新事業提案・業務改善策
を通じた地域貢献および人材育成・確保

活動を開始した経緯
・滋賀県信用組合では、地域密着型の金融機関として、信用組合のブランド力向上を図るため、地域大学との連携を模索していたところ、以前より懇意にしていた滋賀県中小企業団体中央会の紹介により、2023年度より、滋賀大学（滋賀県）、ならびに龍谷大学（京都府）の2大学で当組合理事長がゲスト講師となり講義を実施することとなった。
活動の概要・目的
・講義の主なテーマは、「地域社会における信用組合の役割」をベースに滋賀県の地域特性や魅力を交えて、信用組合が地域社会に貢献する姿勢を紹介するとともに、当組合のビジネスマッチング業務を紹介しつつ、ゲーム形式でマッチング業務の演習を行うなど、学生の関心を惹きつける内容となっており、大学側から継続的な講義の依頼を受けている。 ・また、龍谷大学からの要望により、「キャリアデザインのための企業研究」講義のカリキュラムの一環として、当組合が紹介した取引先事業者を学生が訪問し、経営者から事業内容や自社の強み・弱みのヒアリングを行い、学生目線で新事業案や業務改善案を提案する発表会を最終講義で行っている。 ・発表会には、当組合職員、紹介した取引先事業者、大学関係者らが参加し、学生目線の斬新な新事業の提案により、企業側がブランド化・商品化に向けて検討をするなど、新たな事業展開へと発展していく一つのヒントとなっている。 ・さらに、2025年1月に地域公共人材の育成を目的とした「地域人材育成に係る相互協力に関する協定」を龍谷大学と締結した。これにより、当組合取引先事業者の経営者および従業員に対し、同大学大学院の修士課程プログラムである「地域公共人材総合研究プログラム」を紹介・入学を推薦できる枠組みが構築された。同プログラムは修了することで民間資格の「地域公共政策士」が取得できるなど、地域政策、地域、組織のマネジメントなど地域課題の解決について専門的な知識と能力を有した人材の育成に資するものとなっている。
今後の展望・予定
・当組合では、引き続き両大学で講義を実施し、信用組合のブランド力向上を図るとともに、龍谷大学との「キャリアデザインのための企業研究」講義についても継続して連携を図っていく予定である。

【優秀賞】

広島市信用組合（広島県） 広島東洋カープとの連携による地域貢献と
「しんくみ」ブランドの向上

活動を開始した経緯
・広島市信用組合は、当組合が掲げる経営理念（「地域のみなさまとのふれあいの輪を広げます」）のもと、戦後復興の象徴であり地域のシンボルともいえる市民球団、広島東洋カープ（以下「カープ」）との連携に着目し、ともに地域を盛り上げていくため、30年以上にわたりスポンサー活動を実施している。
活動の概要・目的
・当組合では、1992年4月1日から元カープの大野豊氏をイメージキャラクターに起用し、現在まで継続してポスターなどの広告展開を行っている。また、2009年に完成したカープの本拠地「MAZDA Zoom-Zoomスタジアム広島」の建設に際して地域貢献の一環として寄付を行った。 ・2010年より同スタジアムのバックスクリーンに自組合名を掲出する広告出稿を行うなど、「しんくみ」ブランドの認知度拡大に繋げている。 ・さらに、2011年より毎年開催している「スポンサードゲーム」では、地域活性化と職員の福利厚生を兼ねて、お客さまならびに役職員とその家族をスタジアムに招待している。始球式は毎回山本理事長が務め、剛速球を披露し話題となっており、特に2022年のスポンサードゲームでは始球式の様子を収めた動画がYouTubeで1,300万回以上再生され、大きな反響を呼んだ。 ・こうした取組みは、地域の活性化や信用組合業界全体の認知度向上に大きく貢献している。
今後の展望・予定
・今後もカープとのスポンサー活動を継続し、地域との繋がりを一層深めていく。また、スポンサードゲームやバックスクリーンへの広告も引き続き行い、地域に根差した金融機関としての存在感を高め、お客さまから一層信頼される金融機関を目指していく。

【優秀賞】

大分県信用組合（大分県） 宇佐国東半島観光・地域振興広域連携Projectを
通じた大分県の観光振興

活動を開始した経緯
・大分県信用組合の営業区域である宇佐国東(うさくにさき)半島地域は、人口減少が続く大分県において特に高齢化が深刻であり、経済の縮小が懸念されているが、歴史ある数多くの神社・仏閣を含め、日本独自の文化遺産や体験素材といった、世界に誇れる類稀な観光資源を有する地域であるほか、2013年には世界農業遺産に認定されている。 ・また、同地域は大分空港を有していることから、観光振興による経済活性化が可能であると見込み、2019年1月に大分県信用組合が核となって、自治体や企業などと「宇佐国東半島観光・地域振興広域連携Project」を立ち上げた。
活動の概要・目的
・当プロジェクトは、地域の事業者・団体と国内外で事業展開する関係事業者が連携・協力して、魅力ある宇佐国東半島の情報を国内外へ効果的に発信することにより、インバウンドツーリズムを軸とした観光誘致・地域振興事業の活性化を行い、人口減少による経済縮小の対抗策とすることを目的としている。 ・具体的には、当組合は組成団体として、それぞれの会員（行政、大学や大手上場企業を含む民間企業等）を巻き込み、ハブとなって観光事業者向け融資など金融面の支援を行っているほか、フォーラムの開催を通じた会員同士の交流、旅行商品の開発支援および地元ケーブルテレビとの連携による番組制作等の活動を組合の主導・協力のもと行ってきた。 ・また、現在では別府市や宮崎県の高千穂町、熊本県阿蘇市もプロジェクトに参画しており、複数の観光地が連携することによる交流人口の増加や交流時間の拡大を通じた地域への経済効果創出も目的としている。
今後の展望・予定
・国内の有名観光地ではオーバーツーリズムが問題となっているが、宇佐国東半島地域においてはキャパシティーに余裕があるため、受け入れの強化を図っていく。また、現在の九州ではアジアからの観光客の来訪が多いことから、欧米豪の誘客促進と「コト消費」のコンテンツ強化など観光の高付加価値化を目指していく。

【優秀賞】

河合 由治 氏 青少年育成支援活動（バスケットボールの指導者、
【富山県信用組合(富山県)】 競技の普及)

活動を開始した経緯
・河合氏は1989年の入組と同時に地元のバスケットボールのクラブチームへ入部し、バスケットボール競技の普及活動、各種大会等の運営に携わったことがきっかけとなり、地元の砺波(となみ)市立砺波南部小学校スポーツ少年団で9年間コーチとして活動した。 ・その後、地元富山県立石動(いするぎ)高等学校から依頼を受け、3年のブランクを経てバスケットボールの指導を再開することとなり、今年で12年目を迎える。これまでに延べ150人程度の子どもたちを指導してきた。
活動の概要・目的
・石動高校では主に、部員練習メニューの企画、運営を中心に活動しているほか、現在は富山県から「部活動指導員」として委嘱を受け、各種大会への参加、練習試合の企画運営にも携わっている。 ・活動を通して、部員たちにバスケットボールの楽しさを知ってもらい、意欲と充実感をもってもらうことを目的に、部活動に取り組めるような環境作りや指導にあたっている。
今後の展望・予定
・少子化により部員数が減少傾向にあるなど、バスケットボール部として継続して活動するためには厳しい状況にあるものの、他校との連携による合同チームの結成やOB、OGとの交流、他のコミュニティ（中学生、社会人等）との練習や試合を企画するなど、バスケットボール部として継続して活動できるよう創意工夫を凝らしながら企画運営に取り組むとともに、バスケットボールの楽しさを老若男女問わず伝えていくことで、競技人口の普及に尽力していく。

【優秀賞】

河野 宏幸 氏

【宮崎県南部信用組合(宮崎県)】

縮小する地域社会への対策として学校教育振興と
油津地域協議会等を通じた地域活性化への取組み

活動を開始した経緯
・河野氏は、子息が油津(あぶらつ)小学校に入学した2009年に同校のPTA役員から監査員の打診を受けたことがきっかけとなり、自身が生まれ育った日南市の学校教育振興、地域社会の発展に貢献したいとの思いもあり、PTA役員等の要職を16年間にわたり務めることとなった。 ・また、2013年からは日南市油津地域協議会の代議員（総務広報部に所属）となり、地域住民の代表として様々な地域課題の解決（各種イベントによる地域活性化）への取組みや、安全安心で安らぎのある地域づくりに向けた取組みに尽力している。
活動の概要・目的
・PTA役員としては、油津小学校監査に就任後、子息の進学に合わせて、油津小学校PTA会長、油津中学校PTA会長、日南高校PTA会長、宮崎県高等学校PTA副会長、日南高校評議委員等を16年間にわたり歴任し、その中でPTA会計の監査、体育大会の支援、スポーツ大会・夏祭りの企画・運営、学校清掃、学校教師の教育指導および進路指導方法の評価等、多岐にわたる活動を行ってきた。 ・日南市油津地域協議会の代議員としては、年5回、同協議会の広報誌『ほりかわ』の発刊に携わったほか、日南市の冬の風物詩になっている一大イベント「堀川夢ひろばイルミネーション」プロジェクトの中心メンバーとして、毎月の会議、点灯式当日の運営、撤去作業に至るまで携わり、プロジェクトの成功に向けて尽力した。
今後の展望・予定
・同氏はPTA役員や油津協議会での長年の地域貢献活動により、多くの方々と知り合い、協働したことは同氏自身の成長にも繋がったと考えており、これからも自身の人脈を通じて、地域の発展に貢献し続けていく。

以 上

＜ 参考 ＞ 第5回「しんくみブランド表彰」について

1. 目的

信用組合、信用組合協会（地区協会および都道府県協会をいう。以下同じ。）および信用組合役職員が取り組んだ社会貢献活動、しんくみの日週間活動ならびに信用組合の本業に付随した地域経済の活性化に向けた取組み等、信用組合の基本理念である相互扶助（共助の精神）を具現化した活動のうち、趣旨や成果につき優秀なものを表彰する。

これにより、信用組合業界の諸活動を内外に認知させるとともに、ブランドイメージの向上を図る。

2. 表彰対象

- （１）信用組合部門 信用組合、信用組合協会
 ※信用組合の営業部店単位での活動も含む。
- （２）役職員部門 信用組合役職員
 ※信用組合内サークル・グループ、部署単位の活動も含む。

3. 選考方法

しんくみブランド表彰選考会にて厳正に選考のうえ、表彰先候補を選定し、全信中協理事会で表彰先を決定する。

4. 選考のポイント

以下の項目を総合的に判断する。なお、活動の内容がすべての項目に該当しなくとも、特定の項目において顕著な取組みが認められる場合、評価の対象とする。

①継続性、②革新性、③課題解決性、④コミュニティとの一体性、⑤話題性、⑥模範性

5. しんくみブランド表彰選考会 委員

中村 健	株式会社全国信用組合新聞社	顧問
伊藤 麻美	日本電鍍工業株式会社	代表取締役
柳沢 祥二	全国信用組合中央協会	会長
北村 信	全国信用組合中央協会	理事長、全国信用協同組合連合会 理事長
吉澤 守	全国信用組合中央協会	専務理事
濱田 秀夫	全国信用協同組合連合会	専務理事

※所属は令和7年9月現在、敬称略